

新型コロナウイルス感染症流行下における 書式アンケート調査によるスモン検診実施の試み

高田 博仁 (国立病院機構青森病院脳神経内科)

大平 香織 (国立病院機構青森病院地域医療連携室)

研究要旨

今年度は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的なパンデミックにより、本邦においても、移動やイベント、会食等、種々の活動が制限され、国民の日常生活にも変化が生じ、新たな生活様式への適応を余儀なくされた。患者の受診や生活にも少なからぬ影響があり、病院・施設等でも入院患者・入所者への面会制限や立ち入りが制限されることとなった。このため、スモン恒久対策として毎年実施しているスモン検診も例年と同様の方法を取ることが難しくなった。そこで、我々は、面会や移動が制限される中でスモン検診を実施する手段として、アンケート書式の郵送を利用する調査を試みた。

スモン現状調査個人票を基にアンケート式調査書を作成した。青森県でスモン検診に例年同意されている方4名に対して、本人および家族宛てとして、作成したアンケート書式を郵送し、必要があれば施設職員・ヘルパーに補助してもらい、調査に回答、郵送により返送してもらった。

4名全員から回答があった。全例から解析の同意が得られた。回答結果をスモン研究班班員が現状調査個人票に書写し、実施方法を明記した上で地区リーダーに返送した。郵送アンケート調査を実施して良かったと考えられる点として、「ADLおよび介護に関する調査」等については、限られた時間で行う検診よりも、記述による方が患者や家族の方がゆっくり考えて記載する時間が取れるため、詳細な内容を記載することができる可能性があげられた。一方、問題点としては、診察を要する項目では「昨年に比して」との質問により「相対的な現在の状況」を把握することしかできないこと、記載内容の正確性に関する保証がないことが考えられた。また、家族の方から「(患者が)年に一回会えるのを楽しみにしていたが、この状況(コロナ禍)では仕方ない、残念だ」との手紙をいただき、毎年の検診を楽しみにしている患者もいるとことが確認できて、検診を行う側も心が慰められ勇気づけられたとの一面があった。

スモン検診は、患者の病状を診察するとともに、患者や家族と対面して、コミュニケーションを取りながら行うことも、今日では大切な要素の一つになっているものと再認識したが、状況によっては、アンケート形式の書式郵送方式で行うことも、情報収集の普段として、一つの方法となり得るものと考えられた。

背景

2020年度新 型コロナウィルス感染症 (COVID-19) 流行

種々の活動が制限…移動、イベント、飲食

日常生活の変化…新たな生活様式への適応

患者の受診や療養生活にも少なからぬ影響

入院患者・入所者への面会制限

病院・施設への立ち入り制限

患者の日常的活動や福祉サービス利用への影響

→ スモン検診の実施へも影響

図 1

スモン現状調査個人票
厚生労働行政推進調査事業費補助金
(難治性疾患政策研究事業)
「スモンに関する調査研究班」

B. 現在の身体状況

- a. 栄養: 1. 不良 2. やや不良 3. ふつう 4. 良好
b. 体格: 1. 高度やせ 2. 軽度やせ 3. ふつう 4. 肥満
c. 食欲: 1. 高度低下 2. やや低下 3. ふつう 4. 亢進
d. 睡眠: 1. 常に不眠 2. 時々不眠 3. ふつう 4. 過眠



スモン現状調査個人票に対応する書式による郵送アンケート調査

今年度、スモン検診に代わる本調査にご協力頂ける方、データの解析に同意頂ける方は、次のようにチェックをした上で、以下の質問にお答えください。

- 本調査に参加同意する
 本調査のデータ解析に同意する

- B. 現在の身体状況についてお教えてください
- a. 栄養状態: 昨年と比べて
 口悪い 口悪い 変わらない 充分すぎるくらい
- a. 体格: 昨年と比べて
 かなりやせた 少しやせた 変わらない 太った
- a. 食欲: 昨年と比べて
 かなり低下した 少し低下した 変わらない 亢進した
- a. 睡眠
 常に不眠 時々不眠 ふつう 過眠

図 2

A. 研究目的

今年度は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的なパンデミックにより、本邦においても、移動やイベント、会食等、種々の活動が制限され、国民の日常生活にも変化が生じ、新たな生活様式への適応を余儀なくされた。患者の受診や生活にも少なからぬ影響があり、病院・施設等でも入院患者・入所者への面会制限や立ち入りが制限されることとなった。このため、スモン恒久対策として毎年実施しているスモン検診を、青森県では、スモン患者数が少なくその半数が施設長期入所者であることから、これまで施設訪問や自宅訪問による対面式で実施していたが、例年と同様の方法を取ることが難しくなってしまった。そこで、我々は、面会や移動が制限される中でスモン検診を実施する手段として、アンケート書式の郵送を利用して行う調査を試みた (図 1)。

o. あなたは介護保険制度によるサービスを利用していますか

要介護 (1・2・3・4・5)		要支援 (1・2)	
制度・サービスの種類	利用している ことがある 利用した ことはない	制度・サービスの種類	利用している ことがある 利用した ことはない
区分	介護給付	介護給付	
1	訪問介護	28	介護予防訪問介護
2	訪問入浴介護	29	介護予防訪問入浴介護
3	訪問看護	30	介護予防訪問看護
4	訪問リハビリテーション	31	介護予防訪問リハビリテーション
5	訪問介護管理指導等	32	介護予防訪問介護管理指導等
6	通所介護	33	介護予防通所介護
7	通所リハビリテーション	34	介護予防通所リハビリテーション
8	短期入所生活介護	35	介護予防短期入所生活介護
9	短期入所療養介護	36	介護予防短期入所療養介護
10	福祉用具貸与	37	介護予防福祉用具貸与
11	特定福祉用具販売	38	介護予防特定福祉用具販売
12	住宅改修	39	介護予防住宅改修
13	特定施設入居者生活介護	40	介護予防特定施設入居者生活介護
14	居宅介護支援	41	介護予防介護支援
15	認知症対応型通所介護	42	介護予防認知症対応型通所介護
16	認知症対応型短期入所介護	43	介護予防認知症対応型短期入所介護
17	小規模多機能型居宅介護	44	介護予防小規模多機能型居宅介護
18	高齢者福祉施設等居宅介護	45	介護予防高齢者福祉施設等居宅介護
19	認知症・認知症対応型通所介護	46	介護予防認知症・認知症対応型通所介護
20	高齢者対応型訪問介護	47	介護予防高齢者対応型訪問介護
21	高齢者対応型短期入所介護	48	介護予防高齢者対応型短期入所介護
22	高齢者対応型通所介護	49	介護予防高齢者対応型通所介護
23	高齢者対応型居宅介護	50	介護予防高齢者対応型居宅介護
24	介護老人福祉施設	51	介護老人福祉施設
25	介護老人保健施設	52	介護老人保健施設
26	介護医療院	53	介護医療院
27	介護療養型医療施設	54	介護療養型医療施設

図 3

コピー添付



B. 研究方法

スモン現状調査個人票を基として、調査項目を質問回答形式にアレンジして書き出す形で、アンケート式調査書を作成した。冒頭に、調査への同意とデータ解析への同意をチェックする箇所を設け、現状調査個人票にある項目を全てアンケートに盛り込んだ (図 2)。ただし、一部にそのまま個人調査票の表を回答欄として生かした方が判り易いと思われるものもあったため、これらに関しては、調査票の相当部分をコピーして同封し、アンケート本文で回答内容を記してもらうよう説明を加えた (図 3)。青森県でスモン検診に同意されている方は 4 名のみであり、2 名は施設長期入所中、1 名は福祉サービス事業所を利用して独居生活、1 名は高齢者の配偶者と同居在宅療養中だったので、本人および家族へアンケート書式を郵送し、必要であれば施設職員やヘルパーによる補助を得て回答、同じく郵便にて返送してもらった。

(倫理面への配慮)

本研究は、毎年実施されているスモン検診で調査されているスモン現状調査個人票にある項目を質問内容とするアンケート調査である。有記名にて個人が特定されるが、アンケート調査には、調査への協力とデータ解析に関する同意チェック欄が設けられており、調査への協力は患者・家族の自由意志に基づくものである。また、スモン検診データとしてスモン研究班の解

結果：4名全員から回答、協力・解析の同意

良かったと考えられる点：

個人調査票「ADLおよび介護に関する調査」等では限られた時間で行う検診よりも、むしろ詳細な内容を把握することができる可能性がある。

問題点：

診察を要する項目では「昨年に比して」との問いで相対的な現在の状況を把握することしかできない。正確性に関する保証がない。

図 4

析に向けデータ提供がなされるが、患者個人が特定される形で公表されることはない。

本研究は、国立病院機構青森病院倫理委員会における審査を受け承認されたものである。

C. 研究結果

4名全員から回答があった。全例から解析の同意が得られた。回答結果をスモン研究班班員が現状調査個人票に書写し、実施方法を明記した上で地区リーダーに返送した。

郵送アンケート調査を実施して良かったと考えられる点として、「ADLおよび介護に関する調査」等については、限られた時間で行う検診よりも、記述による方が患者や家族の方がゆっくり考えて記載する時間が取れるため、詳細な内容を記載することができる可能性があることがあげられた。一方、問題点としては、診察を要する項目では「昨年に比して」との質問により「相対的な現在の状況」を把握することしかできないこと、記載内容の正確性に関する保証がないことが考えられた。

また、家族の方から「(患者が)年に一回会えるのを楽しみにしていたが、この状況(コロナ禍)では仕方ない、残念だ」との手紙をいただいた。毎年の検診を楽しみにしている患者もいるとのこと確認できて、検診を行う側も心が慰められ勇気づけられたとの一面があった(図4)。

D. 考察

今年度はCOVID-19のパンデミックにより、移動やイベント、会食等、種々の活動が制限され、国民の日

常生活にも変化が生じた。新たな生活様式への適応を余儀なくされたのは、一般市民だけではなく、医療や福祉を必要とする患者においても、受診や療養生活等、大きな影響がみられることとなった。患者の受診傾向にも少なからぬ変化が生じたが、多くの病院や施設等において、病棟や施設内への立ち入りが制限されることとなり、入院患者・入所者への面会制限が実施された。インターネット回線を利用したウェブ面会等が積極的に進められた病院や施設もあったが、地方の施設では設備や機材等の問題もあり、部外者が建物内に入ることができずに、家族や知人と面会できないまま、非常に不自由な思いをすることになった患者も数多くみられた。青森県では、スモン患者数が少なく、その半数が施設の長期入所者であることから、スモン恒久対策として毎年行われているスモン検診を、これまで施設訪問や自宅訪問による対面式で実施していた。ところが、COVID-19による施設等への立ち入り制限や面会制限がなされている状況においては、例年と同様の方法でスモン検診を実施することが難しくなってしまった。そこで、我々は、面会や移動が制限される中でスモン検診を実施する手段として、アンケート書式の郵送を利用して行う調査を考えた。

アンケート調査は、スモン現状調査個人票にある項目を全てアンケートに盛り込み、冒頭に調査への同意とデータ解析への同意をチェックする箇所を設ける形の書式で作成した。基本的には、スモン現状調査個人票にある項目を、質問・回答形式に変更して書き写す形にアレンジしたが、一部にそのまま個人調査票の表を回答欄として生かした方が判り易いと思われるものもあったため、これらに関しては、調査票の相当する部分をコピーして同封し、本文に説明を加えた。従って、本来、スモン検診で調査される「診察所見」以外の項目は、全て網羅したものとなった。「診察所見」に関する項目は、診察を行うことができないことから、客観的な他覚所見を取ることができないため、「昨年に比してどうか」との質問により、本人あるいは家族、施設職員がみた所見としての「相対的な現在の状況」を把握することで代用せざるを得なかった。

本法における短所としては、この「医師による診察所見を得ることができない」ことが挙げられ、診察を

要する調査項目に関しては、「昨年に比べた相対的な変化」としてしか捉えることができないこと、記載内容の正確性に関する保証がないことが考えられた。一方、質問項目によっては、例えば、現状調査個人票の項目「ADLおよび介護に関する調査」等については、限られた時間で行う検診時の応答よりも、時間的な余裕や考え直したりゆっくりと思い出したりして記載することのできる記述式の方が、むしろ詳細な内容を把握することができる可能性があるのではないかと考えられた。何れ、「診察所見」以外の項目に関しては、アンケート調査形式による調査も、情報収集の一法として有用である可能性が示されたものと考えられた。

また、本調査に際して、一人の家族の方から「(患者が)年に一回会えるのを楽しみにしていたが、この状況(コロナ禍)では仕方ない、残念だ」とのお手紙をいただいた。スモンの恒久事業として、また研究としてはスモンのデータを集積・解析することを目的として、三十年余の長きにわたって毎年実施されてきたスモン検診ではあるが、今日では、検診を行い、スモン患者や家族と対面してコミュニケーションをとり、医療や福祉の相談を受けたり、体調についてのお話をするこも、重要な要素の一つになっているのではないだろうか。毎年の検診を楽しみにしている患者も実際にいるのだということが確認できて、検診を行う側も心が慰められ、勇気づけられたエピソードとして記しておきたい。

E. 結論

スモン検診は、患者の病状を診察するとともに、患者や家族と対面して、コミュニケーションを取りながら行うことも、今日では大切な要素の一つになっているものと再認識した。今年度のような対面診察が困難な状況下においては、アンケート形式の書式郵送方式で行う「スモン検診」も、診察所見を除く情報収集法の一つとして、考え得るものであろう。

G. 研究発表

1. 論文発表

未定

2. 学会発表

未定

H. 知的財産権の出願・登録状況

特記すべきことなし

I. 文献

- 1) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き・第4版, 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部, 2020.
- 2) 新型コロナウイルス感染症 外来診療ガイド・第2版, 公益社団法人 日本医師会, 2020.
- 3) COVID-19 expert opinion, 一般社団法人日本医学学会連合, 2020.